

外国人 と 生きる

オレの歌

北山 夏季 (きたやま なつき)

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

ラップの結婚祝い

彼のことを知ったのは、二〇〇四年のある春の日のことである。そのころ、スタッフとして参加しはじめたばかりの「NGOベトナム in KOBE」(神戸市長田区)の事務所です。彼が「これ見てー長男が作ったラップ。彼がこの前の長女の結婚式で唄ったのよ」と一枚の紙を見せてくれた。それにはこう書いてあった。

《弟から祝いのラップ》

まずは、アッキおねえちゃんおめでとー！
ゆびわに誓って 今結婚／二人で向かう
人生のレール／頑張れよ 僕から送る
エール／今日という日を 皆で祝え／
しんせん日 喜び笑え／生きていくなか
でいちばんでかいイベント／これから
も二人でしっかりせんと／ウエディングド
レス着て あね／今日はいちだんときれ
くなつたね／夫 アッキもカッコよくて
／ずっと仲良し腕組んで／いつばいばい
送りたいことば／二人で開けよう 未
来のドア／愛し合い 永遠のとわ／一生
懸命子どもの世話(以下省略。原文のまま)。
読んだ瞬間、胸が熱くなった。弟から
姉への愛情あふれる、素直な祝いのメッ
セージである。ところどころ韻を踏んで
いて、ことばを選びながらも姉に思いの
すべてを伝えようとする姿が頭に浮か

んだ。まだ彼に会ったことがなかったが、詩の内容や、ガーさんから彼が毎日詩を書いてるという話を聞き、繊細な心をもった青年なのだろうという印象だけが
あった。
その後、ガーさんの隣で仕事をしながら、世間話をするうち、彼がおとなしく机に向かつて詩を考えているようなタイプではなく、むしろやんちゃで、それが過ぎてときには大ケガをして親の手を焼かせた息子としての面が見えてくるようになった。それから彼が思いつくままに詩を書き、バイトをしながら、ときに周囲をヒヤッとさせるようなこともしているという
ことを小耳に挟みながら、何カ月かが過ぎていった。

在日ベトナム人二世、MCナム

二〇〇五年、NGOベトナムが主体となつて開いた旧正月を祝うついで彼は初めてわたしの前にあらわれた。そこで彼は初めてベトナム難民の子ども、在日ベトナム人二世としての自分をさらけ出すラップ曲「オレの歌」を観客に披露した(「オレの歌」を参照)。

「彼」は、プ・ハ・ベト・ニヤット・ホアイ・ナム(以下、ナムさん)が「オレの歌」を作ったのは、一七歳のときだ。ナムさんは一九八一年にインドシナ難民として来

日した両親(上述のガーさんとその夫)のあいだに五人兄弟の長男として神戸市長田区で生まれた。成長の過程で、ベトナム人であることを悩み、ときには日本名を名乗って日本人になりきろうとしたこともあったようである。しかし、詩のなかで「オレはオレのことをオレの歌で証明」と言っているように、ナムさんはラップという自分の存在を確認し表現する手段を獲得した。彼は各地のイベントやライブハウスで「オレの歌」を中心にパフォーマンスをおこなってきた。そうした活動を続けていくうちに、在日ベトナム人二世のラッパー、MCナムとしてメディアでも取り上げられ注目されるようになっていった。

可能性を求めベトナムへ

二〇〇七年(一九歳の秋、ナムさんは突然ベトナムに留学した。両親の母国へ「旅立つ」前、「ベトナム語でラップを作れるようになりたい」と言っていた。そのことばのとおり、今、ナムさんはホーチミン市にある大学でベトナム語を勉強しながら、ベトナム語ラップの創作に励んでいる。二〇〇八年に入って、いつものようにNGOで仕事をしていると、四年前と同じようにうれしそうに顔を笑ったナムさんが「これを見てー」と何枚かの紙を手渡してくれた。ナムさんからの手紙とベトナム語のラップ(詩)だった。手紙にはベトナム語の一日の生活、授業の様子、学校のイベントでラップを発表したこと、恋の話などがベトナム語でびっしり書かれていた。全文ベトナム語の手紙を息子からもらったガーさんのうれしさが伝わってくる。「ベトナムが楽しくて仕方ないみたい。こんなに早くベトナム語が書けるようになるなんて！今までベトナム語で話しかけてきてよかった。日本に帰ってきたとき、ベトナム語で彼と話すのが楽しみ」と目を細めながらガーさんは言う。



ラップに出会う前のナムと家族

<オレの歌>

(全文から抜粋)

オレの名前はVu Ha Viet Nhat Hoai Nam / パパとママとベトナムと日本とマイネーム / 小学卒業後 オレの名は翔と書く / ベトナム人がイヤでなりきった日本人 / 日本名にこの顔 誰もわかりやしない / ただ本性がバレるのがイヤでイヤでたまらない / B-Boy という言葉にひかれ / だかめの服を購入 / 日本人ラッパー マネてオレもなったラッパー / しかし / ある日気づいた マネばっかでダサいし / 逃げ回ってばかり / ベトナム人をかくし / ある日言われた オレは Nam なんだと確信 / その日から日本に住むベトナム人ラッパー / だが 日本人になりすぎて大切な母国語を失っちゃった / 母国に帰ってもオレは日本人だと言われる / この国で生きる大変さも知らないで / お金がないから物とって捕まる / 国籍がないから 強制送還できず 一生出れず ないものがないから / この国にいても オレに国籍はない / どの国にいてもオレに国籍はない / オレの血は確実に日本より西のものだ / そうなればついにオレに国籍はいらない / オレはオレのことをオレの歌で証明



一番上の姉の結婚式でラップ披露

両親の祖国脱出劇リズムに刻み

ベトナム二世世作詞作曲

ベトナム二世世のナムさんは、両親の祖国脱出劇リズムに刻み、ベトナム二世世作詞作曲。ナムさんは、両親の祖国脱出劇リズムに刻み、ベトナム二世世作詞作曲。ナムさんは、両親の祖国脱出劇リズムに刻み、ベトナム二世世作詞作曲。

難民ラップ

難民ラップ。ナムさんは、両親の祖国脱出劇リズムに刻み、ベトナム二世世作詞作曲。ナムさんは、両親の祖国脱出劇リズムに刻み、ベトナム二世世作詞作曲。



ベトナム留学中のナム

毎日新聞 2005年10月31日の記事